

令和3年度 法人の執行状況報告(案)

【法人本部】

コロナ禍における感染防止対策に留意するも、令和3年8月に草牟田エリアにて陽性者が確認され事業の一部を休止する等対応した。一方で、かわもと記念クリニックの全面協力による、イエローリボンコロナワクチンプロジェクトを発動し、吾子の里、太陽会と当法人の3法人で職域接種を8月に実施。各法人スタッフ、家族をはじめ近隣住民のみなさんにもお声かけし、速やかなるワクチン接種(2回目まで)を実施。3回目は川本院長が各施設を巡回。(しかし、令和4年5月3日に陽性者確認、16日現在、利用者14名、スタッフ6名が陽性となり、ゆうかり学園クラスター状態となる。)

令和4年2月2日、水流洋会長が逝去したことを受け、同4日に法人として合同葬を執り行う。個人の遺志を継ぎ、今後も邁進していきたい。

【岡之原エリアについて】

利用者2名(男女1名ずつ)の方が他界。女性スタッフの不足が相変わらず課題。入所利用者の新規、及び GH からの再入所者を検討。就労系事業の見直しを令和4年度にかけておこなう。

【草牟田エリアについて】

生活介護の利用状況について、利用率のアップに伴い収支状況の改善がみられる。地域生活支援拠点として、鹿児島市障害者基幹相談支援センターと連携しつつ、鹿児島市内の14法人(令和4年4月に16法人)との面的整備につながる連携協定を結び展開中。

【上福元エリアについて】

コロナ禍ではあるが、インクルーシブ保育を実施しつつ、子どもたちの成長をともに喜び合いつつ、可能な限り様々な体験(ゆうかり学園の資源活用)をしてもらっている。

放課後等デイサービスに関しては、収支状況の改善が厳しいという面と南部エリアに特別支援学校が新設されることに伴い、新規事業者が増え、利用者の移行も可能とのことで当年度をもって事業廃止とした。

【事業企画課】

鹿児島市施設連絡業議会の事務局として、鹿児島中央駅地下コンコースにて、かごしまアールブリュットセンターの展示実施(12/25-1/8)。強度行動障害従事者養成研修(3/3-4,3/24-25)を実施。水流源彦が全国地域生活支援ネットワークの理事長に就任したことを機に、巡回アメニティーフォーラム in 鹿児島を3月26日に開催。

【監事監査】2021年5月20日(木)

【理事会】2021年5月27日(木)、6月18日(金)、12月11日(土)、
2022年3月27日(日)

【評議員会】2021年6月18日(金)

【第三者委員会・運営協議会】2021年8月3日(火)



令和3年度 ゆうかり学園 事業報告(案)

1. 事業報告

1)施設入所支援

定員40名 期首 38名(男20:女18)/期末 36名(男19:女17)

利用者がお二人お亡くなりになった。女性スタッフが年度末で 4 名離職。派遣スタッフ等でのカバーをしつつも宿直・夜勤体制の見直し等を検討中。

2)生活介護

定員75名 期首 65名/期末 63名

強度行動障害支援者養成研修、障害者虐待防止研修等の受講を通して技術ならびに意識レベルの向上を目指してきた。前年度からスタートした WEB による瑞宝太鼓ワークショップも楽しみにしておられる。外出の機会は少ないが、スタッフがいろいろなアイデアを出して工夫して過ごしている。

3)就労継続A型

定員10名 期首 6名/期末 3名

ぼおくしょぶが遊花里での餃子作りが主な仕事となっている。工賃のアップに結び付けられない状況が続いており、就労 B への移行を2名の方にさせていただく。

4)就労継続B型

定員45名 期首 38名/期末 40名

これまで就労系の日中活動はゆうかり学園では多くの作業種目があり、利用者の方の能力に応じた作業班に所属しており、その中でも中心的な日中活動としては畜産、園芸、であったが、令和4年度中に、一部を生活介護へ移行することとする。

日中活動報告

1)園芸(蔬菜)

安心安全でおいしい野菜を提供することを目指して、減農薬での野菜作りから可能な限り無農薬での野菜作りを念頭に置きながら活動に取り組んできた。利用者の皆さんにもその野菜作りに参加してもらいと充実した活動ができた。スタッフの配置の難しさが課題。

2)園芸(花卉・果樹)

園内の花壇の美化は勿論、ゴルフ場、みなよし療護園などの花壇の管理をおこなって来た。施設外での活動を控えざるを得ない状況が続く。果樹では、ミカン、ブルーベリーの出荷先として天文館果実堂との提携を引き続き実施。また、ゆうかり保育園の園児たちの芋ほり、ミカン狩り、ブルーベリー狩りの場として今年も利用してもらい、楽しんでもらうことが出来た。

3)畜産

かごしま黒豚の生産から加工販売まで一貫した畜産活動に取り組んできた。品質の高い肉の生産のため工夫した餌を与えるなど、肥育の充実を目指している。

廃棄直前のさつま芋の供給や、牧草の活用で餌にかかる経費の削減を目指してきた。

4)工芸(木工・竹工)

屋久杉の材料確保が難しいことから少人数での活動が続いている。今年度も屋久杉の小物を主に製作した。卒業・卒団記念のマスコットボールも例年通りの注文に応えることができた。門松の製作は例年通り職員を中心に活動した。

竹工については、庭ほうきの生産中止に伴い、終了とした。

5) 紙工箱折り

めぐい、スプラウトシール貼りの注文を受けての活動が日々続いている。菓子箱については、コロナ禍における不況の打撃を直接受けている。

6) そうさく

健康の維持、管理に気をつけなければならない方も多く、まずバイタルチェックを毎朝、夕に必ず行い活動に入る。リサイクル活動では空きかん、ペットボトルの分別、圧縮作業、リサイクル活動のないときは散歩やレクリエーションを企画して活動している。今後もこれまでの活動の他に、利用者の皆さんが楽しめる活動を事前に企画して実行したい。

7) 生活介護

対象者が高齢や重度の障害のある方であることから、毎日の健康状態には気を配りながら、健康体操や、歩行散歩、リクリエーションなどを中心にした活動で今後も健康維持を第一に考えた支援をする。

8) ぼおくしよつが遊花里

利用者の皆さんがそれぞれの持ち場で頑張っている。就労 A と B の混合となった一年であったが、次の段階として A から B への移行を検討している。

2. 職場実習及び施設外実習

中央仮設に新たに 1 名受け入れていただいた。また、ニッセイ鹿児島、久保水耕園へ職場実習として受け入れをしていただいた。ユニットを組み職場へ通勤するなどの取り組みを行ってきた。金銭管理や余暇の過ごし方の課題であるので今後の支援が重要になってくる。

3. 令和3年度 活動報告

① お悔やみ情報

月/日	行事
7/23	久保田タエ子さん葬儀(7/22 逝去)
3/1	山徳安さん葬儀(2/27 逝去)

② 各種研修会

月/日	各種研修会	参加人数
9/11	法人内虐待防止研修①	37 名
11/13	法人内虐待防止研修②	34 名
12/3	中堅職員研修会	2 名
2/21	障害者虐待防止・権利擁護研修	1 名
3/3・4	強度行動障害支援者養成研修 基礎	5 名
3/24・25	強度行動障害支援者養成研修 実践	5 名

③研修生等の受け入れ状況

期間	男性	女性	所属	趣旨	備考
5/31～6/11	3		鹿児島国際大学	保育実習	宿泊
6/21～10/22		24	医療福祉専門学校	歯科衛生実習	通勤
9/20～10/2		3	鹿児島女子短期大学	児童教育実習	通勤
計	3	27			

【令和3年度の反省と課題】

- ・法人内における研修のテーマ、今回は障害当事者の結婚、子育てについて。
- ・新型コロナウイルスの関係で法人内事業所見学等は極力、断ってきた。(一部視察受入あり)
- ・短期補導受け入れ、特別支援学校(養護学校)実習は未実施。

※11月25日(木) 指導監査 (文書 0件 口頭 0件)

令和3年度 グループホームゆうかり 事業報告(案)

1. 事業報告

1) たんぽぽ(5/5)

入所から1名移行。オストメイト装着者であるが、メンバーとしては顔馴染みでありホームにも馴染んでおられる。ハイバックの車いすにて座位保持の方が1名。他事業所の生活介護を2名の利用者が週に2回利用中。夜勤者を配置し、きめ細かな支援を継続中。

2) もくれん(5/5)

たんぽぽ利用者に比べて、比較的自立度の高い方々であるが、引き続き見守り体制を維持。

3) さざんか(6/6)

夜間の巡回回数を増やすなど、他の利用者への暴言・暴力が酷い方に対する声掛けと見守りを継続中。

4) わかたけ荘(4/4)

飲酒、携帯料金等の調整が課題の方もおられるが、健康面に留意しつつ支援を継続。

5) きんもくせい(6/6)

職員不在時の癲癇の発症などの可能性があるため、今後の夜間支援体制について要検討。

6) あじさい(4/5)

認知傾向のみられる利用者への対応困難事例、癲癇発作による怪我の発生等、医療面との連携をしつつ見守り体制を強めている。

7) びおら(2/4)

居室の掃除等、世話人とのコミュニケーションが難しいことが多いが、担当職員を交えて支援継続。冷蔵後の私物管理等、トラブル多し。

8) まるおか(4/5)

兄弟で利用されている方もいらっしゃるホームであり、お互い関係性も良好。

9) すずらん荘(6/7)

対人関係でのトラブルも絶えないが、庭先の畑をメンバーで手入れする等、楽しく生活している。

10) コスモス(4/5)

健康面での不調の訴えがあるが、都度対応中。

11) 第二わかたけ(5/6)

新規利用者を迎え入れ、メンバーの入れ替わりもあったが仲良く過ごしていただいている。

12) わかば(4/4)

健康面での不調の訴えがあるが、都度対応中。

13) ひまわり(4/4)

異性との距離の取り方を含め支援継続中。

14) さくら荘(5/5)

転居先のめどは立たず。メンバーの入れ替わりがあったが、それぞれ馴染んでおられる。

※令和4年5月現在、岡之原エリア GH 数 14 か所(男 9:女 5)

総定員数 71 空床 8

令和3年度 地域生活支援拠点ゆうかり 事業報告（案）

【1】運営の基本方針 各事業共通

《事業名》

『生活介護』

『共同生活援助・短期入所』

『一般相談支援、特定相談支援、児童（障害児）相談支援』

『居宅介護、重度訪問介護、行動援護、移動支援等』※令和3年7月以降休止中

『鹿児島市障害者地域生活支援拠点事業（安心コールセンター機能）』

地域で暮らす一步を安心して踏み出すための拠点として、障害のある方々が住み慣れた街で心から安心して暮らすことできる地域づくりを推進します。それが当たり前になる未来を目指して、様々な支援を切れ目なく、不安なく提供できる仕組みづくりを進め、障害のある人もない人も共に歩んで行く場所を目指します。

【2】令和3年度の概要

◎拠点事業全体 ※（）内は前年度比

令和4年3月31日時点

事業	定員	期首	期末
共同生活援助 （くろーばー）	6名	6名	6名
共同生活援助 （すみれ）	6名	6名	6名
共同生活援助 （くるみ）	6名	6名	6名
生活介護 （ばすてる）	20名	33名（+4） 契約者数	34名（+1） 契約者数
特定・児童相談 （あとリエ）	—	255名（+28） 契約者数	293名（+38） 契約者数

【3】各事業報告

○生活介護 ばすてる 定員20名

1) 事業報告 担当職員：鳥丸

年度当初は契約者数33名でスタートした。令和4年3月31日現在で、34名の契約者を得ることが出来た。新規利用者が増えた一方で、コロナ禍（8月コロナ対応のため一時閉所含む）や体調不良等で利用頻度が減った利用者がみられたため、稼働率（+5%）及び利用者延べ数（+87名）は微増となった。

コロナ禍で特別支援学校等からの実習生受入は控えめだったが、これまで受入し

た実習生が令和3年度から利用して下さる等、新規利用者の獲得につながる動きがあった。また、緊急一時対応から体験利用された方がその後の利用契約につながるケースもあった。年末から年度末にかけて新規利用につながる相談が増えていた。

コロナウイルス感染拡大防止に配慮した活動の内容や場所を工夫しながら、充実した室内活動や屋外での四季を感じられる余暇活動等を実施することができた。利用人数が増えるにつれ、活動内容（活動の中身やプログラムの組み方等）及び送迎体制を含めた工夫と個別対応等の検討が必要となっている。利便性の高い立地や建物を活かした様々な活動や地域交流活動等を展開していきたい。

2) 利用状況

令和3（2021）年度 生活介護事業（ぱすてる） 事業報告（利用者数・稼働率等）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
開所日数×20（定員）	420	360	440	400	200	400	
開所日数	21	18	22	20	10	20	
利用者延べ数（名）	344	300	356	340	155	305	
平均実利用者数	16.4	16.7	16.2	17.0	15.5	15.3	
稼働率	81.9%	83.3%	80.9%	85.0%	77.5%	76.3%	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度合計
開所日数×20（定員）	420	400	400	380	360	440	4620
開所日数	21	20	20	19	18	22	231
利用者延べ数（名）	350	336	340	311	293	404	3834
平均実利用者数	16.7	16.8	17.0	16.4	16.3	18.4	16.5
稼働率	83.3%	84.0%	85.0%	81.8%	81.4%	91.8%	82.99%

○共同生活援助 地域生活支援拠点ゆうかり（くろーばー・すみれ・くるみ）

定員：6名×3ホーム＝18名

1) 事業報告 担当職員：山口

令和3年度の期首は定員18名に対して現員18名（満床）でのスタートとなった。目標であった満床を維持することは達成することができた。その他、地域移行に挑戦したい入居者への相談や体験の機会の調整を行った。また、親亡き後に備える保護者への将来に向けた相談や併設する短期入所による宿泊体験の提案等を推進することができた。

今後、現員に変動があった際に、スムーズに対応出来るように準備していく必要がある。入居希望の利用者となつながらを維持しながら、空き情報の提供と移行支援をサポートしていく。グループホームから次の地域生活の場へステップアップを検討される方には、関係機関との連携を密に図り、目標達成に向けたサポートをする役割を担っていきたい。また、コロナ禍における制限のある生活の中に、新たな楽しみを見出しながら充実した地域生活になるようにアイデアを発信していきたい。

2) 利用状況

令和3（2021）年度 共同生活援助（地域生活支援拠点ゆうかり） 事業報告（利用者数・稼働率等）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
件数 (利用人数)	18	18	18	18	18	18
開所日数	30	31	30	31	31	30
定員(18) ×開所日数	540	558	540	558	558	540
利用日数	497	496	499	510	481	467
稼働率	92.0%	88.9%	92.4%	91.4%	86.2%	86.5%

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度合計
件数 (利用人数)	18	18	18	18	18	18	216
開所日数	31	30	31	31	28	31	365
定員(18) ×開所日数	558	540	558	558	504	558	6570
利用日数	521	499	515	493	434	522	5934
稼働率	93.4%	92.4%	92.3%	88.4%	86.1%	93.5%	90.3%

○短期入所 あすてっぷ 定員4名（内1床は緊急一時保護用に空床補償）

1) 事業報告 担当職員：山口

コロナ禍における短期入所受入はリスクを伴うこともあり、受入制限かけた時期もあったが、感染対策を実施しながら可能な限り受入を行った。そのため、令和2年度の実績と比較すると稼働率が微増する結果（+7.3%）となった。

グループホームの併設型であるため、コロナウイルス感染拡大防止の観点から感染状況に応じて流動的に配慮した調整を行った。利用ニーズの比較的低い平日に、定期的な利用を増やすために、将来の自立した生活に向けた体験的な利用の具体的な提案を呼びかけて、稼働率アップに努めた。

今後も、関係機関と情報共有しながら、コロナ禍に配慮しつつ緊急枠を除く実質定員3名分の稼働率アップを目指していく。今後も準備と創意工夫を重ねていきたい。

2) 利用状況

令和3（2021）年度 短期入所（あすてっぷ） 事業報告（利用者数・稼働率等）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
開所日数 ×定員	120	124	120	124	124	120	
開所日数	30	31	30	31	31	30	
利用日数	17	46	50	62	27	18	
平均 利用人数	0.57	1.48	1.67	2.00	0.87	0.60	
稼働率	14.2%	37.1%	41.7%	50.0%	21.8%	15.0%	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間 合計or平均
開所日数 ×定員	124	120	124	124	112	124	1460
開所日数	31	30	31	31	28	31	365
利用日数	44	27	42	41	34	48	456
平均 利用人数	1.42	0.90	1.35	1.32	1.21	1.55	1.25
稼働率	35.5%	22.5%	33.9%	33.1%	30.4%	38.7%	31.2%

○一般相談支援、特定相談支援、児童相談支援 あとりえ

1) 事業報告 担当職員：塩満、福留、満園

鹿児島市在住の障害児（者）および保護者等からの相談支援、電話相談、訪問相談、関係機関との連携などを行ってきた。

令和3年度は、専従3名の相談支援体制にて、計画作成や電話相談、訪問相談、同行相談、来所による相談等を実施してきた。内容としては計画作成依頼、福祉サービスの利用についての相談、本人の不安の解消、情緒安定に関する支援が多かった。特に近隣地域からの児童相談が多く、昨年度より契約者数も増加した。（+26名）

契約者の増加に伴い、計画作成業務（モニタリング含む）量が多くなり、訪問相談等に時間を調整することが困難になりつつあった。相談業務の補助を行う職員の確保も視野に入れながら、相談支援を充実させていきたい。

地域生活支援拠点事業を通して、連携を図る関係機関の幅も広がってきた。次年度は相談体制をより面的に強化していきたい。地域生活支援拠点事業に紐づいた計画相談支援の機能強化（基本報酬アップ）や関連した加算等を積極的に活用していきたい。

今後も相談員が一人で抱え込んでの対応にならぬように、事業所間での連携と地域の関係機関との協働を図りたい。

2) 利用状況

指定特定相談支援・児童相談支援 実績集計（令和3年4月～令和4年3月）

		R3.4	R3.5	R3.6	R3.7	R3.8	R3.9	R3.10	R3.11	R3.12	R4.1	R4.2	R4.3	件数	昨年度比	R2合計
全体	サ等計画	14	9	12	14	9	13	17	16	14	15	12	16	161	18	143
	サ計・モニ	35	44	43	39	39	41	36	49	44	44	46	36	496	72	424
	児支計画	11	4	4	4	4	8	10	8	12	8	4	9	86	20	66
	児計・モニ	14	15	12	9	10	9	7	16	7	16	9	10	134	46	88
													全総件数	877	151	726

（注）「サ等計画」「サ計」…『サービス等利用計画』 「モニ」…『モニタリング』
「児支計画」「児計」…『児童支援利用計画』

令和3（2021）年度	利用者（前年度比）
特定相談	218（+12）名
児童相談	75（+26）名
合計	293（+38）名

※令和4年3月末時点の利用者数（初回の計画請求まで至った利用者総数）

○在宅支援サービス（居宅介護、重度訪問介護、行動援護、移動支援）

となりびと

1) 事業報告 担当職員：有馬

鹿児島市在住の障害児（者）の在宅生活の支援を目的に、居宅介護（身体介護・通院等介助）、重度訪問介護、行動援護、移動支援等の事業を実施してきた。

令和3年度の居宅介護等サービスは、令和3年6月末以降は職員配置困難のため、事業休止となっている。そのため、66時間30分のサービス提供時間となった。

事業再開に向けた求人の募集を継続して、事業再開を目指してきた。昨今の福祉人材難のため、再開の目途が立っていない。

人材確保と育成の再構築を進めながら、登録ヘルパーの雇入や活用等、事業再開に向けた今後の展開を模索している。まずは地盤となる拠点内の基本事業の稼働率向上を図りつつ、連動しながら新たな体制づくりを目指していく。

2) 利用状況

令和3（2021）年度 となりびと 居宅介護等 実績

サービス名		R3.4	R3.5	R3.6	R3.7	R3.8	R3.9
居宅介護 (身体介護)	時間	7	8	2	0	0	0
行動援護	時間	16	12	0	0	0	0
移動支援 (身体有)	時間	14	7.5	0	0	0	0
移動支援 (身体無)	時間	0	0	0	0	0	0

サービス名		R3.10	R3.11	R3.12	R4.1	R4.2	R4.3	合計
居宅介護 (身体介護)	時間	0	0	0	0	0	0	17
行動援護	時間	0	0	0	0	0	0	28
								0
移動支援 (身体有)	時間	0	0	0	0	0	0	21.5
移動支援 (身体無)	時間	0	0	0	0	0	0	0

令和3年度合計

66.5

○鹿児島市障害者地域生活支援拠点事業（安心コールセンター）

1) 事業報告

24 時間 365 日、緊急時の対応や体験の場の提供等のコーディネート業務を行ってきた。5 年目を迎え、地域ネットワークも構築されつつある。

困難事例は、鹿児島市行政及び基幹センター、地域の関係機関等と協働しながら対応できた。コロナ禍での受入判断や児童相談所との連携等、緊急対応の判断が困難な事例もみられた。

地域生活支援拠点事業における緊急一時保護受入についても、鹿児島市行政（障害福祉課・保健所等）と協議した上で受入できた。同居家族（キーパーソン）の緊急時ということで、ロングステイになっていた利用者が、新たな生活の場となるグループホームの受入体制が整い、地域生活を再構築するお手伝いをすることができた。その際に、緊急一時保護受入と連動した短期入所受入も実施した。受入前後から関係機関との連携を図り、1 法人や 1 事業所だけで抱え込まないように、必要時に担当者会議を開催しながら、本人及び家族を側面からサポートすることができた。

令和 3 年度は、拠点事業の追い風になる報酬改定による変更を上手く活用しながら、地域連携（面的整備）の強化を推進できた。協力協定法人も順調に増えており、令和 4 年度開始時には 16 法人に増える予定となっている。これまでに構築してきたネットワークを活用して法人内外の協力体制を整えていく。

2) 利用状況

障害者地域生活支援拠点 実績報告書 (令和3年4～令和4年3月分)

1. 相談件数・緊急一時受入件数

(単位: 件)

相談件数(うち時間外)	186件	(60件)
うち 緊急相談(うち時間外)	63件	(31件)
うち 緊急一時受入(うち時間外)	6件	(5件)

2. 相談内容の内訳

(単位: 件)

①家族等養護(介助)者の疾病等による急な不在	②身体機能・行動上の制約から自宅等での生活が困難となった場合	③知的障害における行動障害や情緒不安定等により自傷・他害の恐れのある場合	④精神障害者における精神的不安等に伴う一時的な避難等
7	0	1	21
⑤福祉サービスの利用等	⑥障害や病状の理解	⑦健康・医療	⑧不安の解消・情緒安定
52	3	9	10
⑨保育・教育	⑩家族・人間関係	⑪家計・経済	⑫生活技術
1	19	3	0
⑬就労	⑭社会参加・余暇活動	⑮権利擁護・成年後見制度等	⑯その他
0	0	12	48

【4】職員研修等 令和3(2021)年4月～令和4(2022)年3月

5/18 ファシリテーター研修 オンライン 2名 相談支援専門員
 6/21-22 強度行動障害支援者養成国研修 基礎研修 1名 鳥丸
 6/24-25 強度行動障害支援者養成国研修 実践研修 1名 鳥丸
 9/27-28 強度行動障害支援者養成研修 オンライン 実践研修 1名 阿間見
 9/11 法人内部研修 複数名 生活支援員 他
 9/17 発達障害地域支援専門員フォローアップ研修 1名 管理者
 11/13 法人内部研修 複数名 生活支援員 他
 12/17 施設長等研修会 1名 管理者
 2/17 鹿児島県災害派遣福祉チーム員等研修会 2名 管理者・鳥丸
 3/3-4 強度行動障害支援者養成研修 基礎研修 2名 生活支援員
 3/24-25 強度行動障害支援者養成研修 実践研修 2名 生活支援員
 3/26 全国地域生活支援ネットワーク 巡回アメニティフォーラム 複数名

【5】職員数(令和4年3月31日時点)

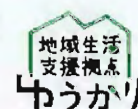
正規職員: 男性8名+女性4名=12名

非正規職員: 男性6名+女性19名=25名

出向職員: 男性2名 ※基幹相談支援センターへ出向中

派遣職員: 男性2名+女性2名=4名

職員合計: 43名(男性18名+女性25名)



令和3年度 ゆうかり保育園 事業報告(案)

(1) 【全体所感】

子ども、職員ともにコロナ禍の生活に順応しながら、行事に関してはまだ制限があるものの、日常生活は子ども達がのびのびと安心して日々を過ごせるよう努めた。様々なかたちで子どもの思い出に残る1年を過ごすことができたと感じる。また、行事が制限される中、学園でのブルーベリー狩り・芋ほり・みかん狩り等、園外保育は自然や動物に触れ合う機会となり、子ども達が楽しむ姿がとても印象的である為、今後も継続していきたい。

園児の受け入れ状況について、鹿児島市の南部地区は待機児童が多く、受入れ増員を検討中であるが、保育士不足が要因の一つと考えられるため、早急に物的・人的環境を整え、受入れを可能にするとともに職員の処遇改善や働き方改革を進めたい。これまでも働きやすい職場作りを全職員で行っているため今後も継続して取り組んでいきたい。

(2) 【園児数】

・在籍数 令和4年3月31日現在 ☆ 74名

0歳児		1歳児		2歳児		3歳児		4歳児		5歳児		全体		
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	総数
4	3	9	3	5	6	7	7	8	9	6	7	39	35	74

・障害児等 令和4年3月31日

障害児		軽度障害児		療育支援児	
男	女	男	女	男	女
1	2	0	0	10	4

(3) 【行事の実施状況】

月	日	行事内容	備考
4	1	入園式	新入園児及び保護者
5	22	芋の苗植え	もも組
7	17	お泊り保育	さくら組
7	22	ブルーベリー狩り	うめ組、さくら組
8	7	夏祭り	全園児
10	3	親子レクリエーション	全園児及び保護者
11	5	みかん狩り	うめ組、さくら組

11	9	水族館お魚ツリー	3歳以上児
12	22	発表会(DVD 撮影)	全園児
1	12	餅つき	全園児
2	3	節分・豆まき	全園児
3	3	ひな祭り	全園児
3	11	お別れ遠足	全園児
3	19	卒園式	さくら組保護者及び職員

・うめ→年少組 ・もも→年中組 ・さくら→年長組

◆毎月 誕生会、スポーツ教室(外部講師)、読み聞かせ(外部講師)、英語

避難訓練、身体測定、食育・クッキング

◆ぬいぐるみ病院(鹿児島大学医学部学生) 通年(不定期)

◆保護者参観ウィーク(1週間)

◆鹿児島市立図書館移動図書館(年間20回)3歳以上児

◆内科検診 5月12日(水)、10月6日(水)【年2回】ゆあさこどもクリニック

◆歯科検診 11月18日(木) 【年1回】たんぽぽこども歯科

(4)【実習生、職場体験他受入状況】

実施日	学校名	人数
5月24日～28日	鹿児島看護専門学校	4名
6月28日～7月2日	〃	4名
10月18日	鹿児島国際大学	1名
10月25日～27日	鹿児島盲学校	1名
2月16日～3月1日	鹿児島女子短期大学	1名
2月17日～19日	鹿児島国際大学	1名

(5)【職員研修状況】

研修名	開催期日	開催場所	参加人数	キャリアアップ
全体研修	5月22日	オンライン開催	2	
保護者支援・子育て支援研修会	6月10日	ホテル・リブマックス	1	
乳児保育研修会	7月7・8日	奄美の里	1	○
障害児保育研修会	8月10日	奄美の里	1	
障害児保育研修会	9月14・15日	サンロイヤルホテル	1	○
乳児保育研修会	10月19日	奄美の里	1	
乳児保育研修会	10月21・22日	サンロイヤルホテル		

食育・アレルギー対応 研修会	11月1・2日	ホテル・リブマックス	1	○
保護者支援・子育て支 援研修	8月19日～20日	奄美の里	1	○
幼児教育研修会	11月11日・12日	奄美の里	1	○
全体研修会	1月22日	オンライン研修	2	
新入職員研修会	2月24日	サンロイヤルホテル	1	

(6) 【職員数】

・職員構成

園長	1名
主任保育士	1名
副主任保育士	2名
保育士(正規)	8名
保育士(非正規)	13名
栄養士	2名
調理員	2名
事務員	2名
看護師	
職員総数	31名

保育士総数 24名 職員総数 31名

(7) 【監査結果】

令和3年9月6日実施 鹿児島市指導監査 書面監査

文書指摘 1件 口頭指摘 0件

【基本情報】

令和4年4月1日現在

✧定員70名

✧対象0歳～5歳

✧開園時間 通常保育 7時～18時 延長保育 18時～19時

✧障害児保育

令和3年度 そだち支援センタースケッチ 事業報告（案）

【1】全体所感

祝日のある月は土曜開所を行い、第2土曜日の下校後や休業日の余暇活動としてのプログラムを実施した。保護者からの事業所に対する評価や要望をもとに反映できることは行い、けがや苦情に対しては迅速に誠意をもって対応するように心がけた。新規契約は口コミによるものが大多数であったが、他の児童で連携を密にとることが増えた相談支援事業所からの勧めで見学、契約と繋がった利用者もいた。

選んで下さった利用者や情報を共有している学校、相談支援事業所などに対し、児童の人生の見通しをつけながら地域に根ざして家族を支えていける事業所として困りごとを共有しできることに誠意をもって対応するよう努めた。

【2】利用状況

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
開所日数	248 日	249 日	242 日
延べ利用者数	2032 名	1877 名	1724 名

【3】利用者の状況活動内容

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
登録児童数	37 名	45 名	46 名

【4】活動内容

児童によっては不得手な内容もあったが、取り組みやすい手段や活動に参加しやすい役割などを提案し工作プログラムは、児童に合わせた手順や材料まで工夫した。平日は30分、長期休暇は1時間程度の活動であるが、活動時間内は可能な範囲で参加できるよう個人に合わせた内容や個別の空間で支援した。

令和3年度もコロナ感染予防にも配慮し、少人数グループでの活動や空間分け、また利用人数に応じて長期休暇中の活動を午前と午後とで2回に分けて行うなど職員の配置も考慮した。クッキングの時のみならず、児童同士直接触れ合わないよう

使い捨て手袋を使用した活動もあった。食事やおやつ時は、対面にならないよう席の配置にも留意した。

	活動	内容
4月	春休みプログラム たてものたんけん リクエスト活動	むくむくアニマル作り等 たてもの内ルールの確認クイズ 風船バレー
5月	工作 体を動かして遊ぼう かんたんクッキング ミニミニゲーム	壁面かざり スケッチドッチボール スイーツたこ焼き 笑ってこらえてじゃんけんぽん
6月	工作 体を動かして遊ぼう 水鉄砲であそぼう	レインボースケッチ お玉リレー 雨が降っても楽しもう
7月	ミニミニゲーム 体を動かして遊ぼう 駄菓子屋スケッチ 工作 夕涼み会（おたのしみ会）	神経衰弱スケッチ版 風船パタパタ 駄菓子を選ぼう ランプシェード カレー作り
8月	夏休みプログラム	「健康の森プール」外出等 水遊び 冷やし中華ランチ そうめん流しツアー
9月	ミニミニゲーム 体を動かして遊ぼう 十五夜クッキング 土曜プログラム	とんとん相撲 ふうせんリフティング みたらし団子 そらバス
10月	体を動かして遊ぼう ハロウィーンクッキング ミステリーツアー	障害物リレー おばケーキ 暗闇の中のツアー
11月	プラコップ工作 体を動かして遊ぼう ミニミニゲーム 土曜プログラム おいしい秋を見つけよう	コップがコースターに フープ渡し 起き上がりこぶし バッティングセンターへGO 果物カット体験
12月	体を動かして遊ぼう クリスマスクッキング おたのしみ会	モップがけリレー ヘクセンハウス 杵うすで餅つき大会

	冬休みプログラム	工作「お正月リース」
1月	冬休みプログラム おたのしみ会 体を動かして遊ぼう 鬼バスターズ	お正月遊び 焼きもち・ぜんざい作り 縄跳び 鬼を描いて退治しよう・ 福門くぐり
2月	ミニミニゲーム 土曜プログラム バレンタインクッキング 体を動かして遊ぼう	ペットボトルボーリング アイロンビーズ チョコバナナ春巻 ファイト一球
3月	ひな祭りクッキング たわわでランチバイキング おたのしみ会 春休みプログラム	いちごのお雛さま バイキングランチ ドーナツトッピング お菓子のつかみ取り大会 迷路の部屋・ハンバーグクッキ ング・映画外出・光るスノードーム

【5】研修状況

月日	外部（主催）・内部	内容	参加人数
8/11(水)	外部（鹿児島県 障害福祉課）	「発達支援関係者スキルアップ研 修」	1名
11/13 (土)	内部	虐待防止法人内部研修 「障害者のライフワークについて」	2名

【6】事業終了に際して

放課後等デイサービス事業として、3月31日まで変わりなくサービス提供を行い春休み中は定員を超える利用者数となった。また最終日は多数の保護者の皆様にも対面して、ご挨拶やお礼をお伝えすることができた。

数回のコロナ禍で登録者数の伸び悩みや利用控えもある中で、他事業所との差別化や営業が不足しこのような結果となった。令和3年度をもって放課後等デイサービスの利用そのものを卒業する児童がいながらも、困り感が解消されたわけではない心苦しさもある。

今後は法人として繋がり続けることで、利用者・ご家族への感謝の気持ちをお返ししたいと考えている。当事業所と関わり、ご指導ご支援をいただいていた関係者の皆様にも感謝の意を伝えたい。